

賀茂いつきのみや 顕彰会 設立趣意書



賀茂いつきのみや顕彰会
設立発起人

千 容子 (二社) 茶道裏千家淡交会 理事長
竹下 景子 俳優

冷泉貴実子 (公財) 冷泉家時雨亭文庫 常務理事

西尾 陽子 本家八ッ橋西尾(株) 会長

西村 明美 柀屋(株) 女将

檀 ふみ 俳優

佐々木真弓 ステンドグラス作家

濱崎加奈子 専修大学 准教授

(公財) 有斐斎弘道館 館長

新木 直人 賀茂御祖神社 宮司

後援

賀茂御祖神社

糺の森財団

下鴨崇敬財団

京都学問所



賀茂御祖神社 (下鴨神社)

京都市左京区下鴨泉川町 TEL:075-781-0010

才女の系譜をつなぐ

平安遷都後、王城鎮護の神として朝廷から篤い崇敬を受けた下鴨、上賀茂両賀茂社は、その例祭「賀茂祭(葵祭)」も勅祭たる格式を誇り、伊勢神宮同様、歴代皇女や女王が賀茂の神に仕える斎王、あるいは「いつきのみや」として斎王の御所、斎院で暮らしました。

この斎王の制度は、初代である平安初期の嵯峨天皇皇女・有智子内親王から鎌倉初期の後鳥羽天皇皇女・礼子内親王が務めた三十五代までおよそ四百年間続きました。いずれの斎王もいつきのみやも才媛揃いで、斎王の御所である紫野の斎院には、多くの宮廷人たちが集い、歌会や管絃などが盛んに催され、御所をしのぐ文化サロンとして華やき、紫式部や清少納言などもこの「いつきのみや」から数多の影響を受けたというほど、文化の発信地でもあったのです。

これら三十五代の歴代斎王の神霊をお祀りするため、下鴨神社では第三十四回式年遷宮事業の一貫として、境内・糺の森に「賀茂斎院歴代斎王神霊社」として御社を再興しました。これを機に、歴代の斎王たちが紡ぎ、育て、守り伝えてきた知と美の足跡や功績を顕彰し、その美しく知性豊かな歴代斎王の生き方と紡がれた文化を今こそ再認し、学ぶことが、あらゆる場面での活躍が期待される現代女性たちの道しるべとなるに違いありません。

人や自然への礼節を尊びながら美しく、強く生きるための心得や技、知識を修得するとともに、次代を担う後進を育て、日本女性の優位性を世界に向けて発信していくことを願って、ここに、令和のいつきのみやサロンたる「賀茂いつきのみや顕彰会」を設立します。



賀茂斎院歴代斎王神霊社